

アジア太平洋地域多目的ワークショップ、日本にて開催。

10月19日より24日の5日間、代々木オリンピックセンターにて、世界スカウト機構アジア太平洋地域主催による、日本では初めての開催となる「多目的ワークショップ」が開催された。韓国、台湾、インド、タイ、バングラデッシュ、スリランカ等の近隣諸国から15名、日本から16名（神奈川連盟からは、高野新平・県コミッショナー、鈴木令子・日連国際委員会副委員長／南央地区、小林明美・日連編集小委員／県央地区の3名）が参加し、杉原正・日連総コミッショナー、松平頼武・日連副国際コミッショナーがそれぞれコースアドバイザー、コースディレクターを務められ、世界機構からはキム・キューヨン・地域事務局長（写真下段右）、鈴木武道・世界委員（世界中で12名の委員のひとり。南央地区／神奈川連盟）、ジャクリーン・コリアー・世界事務局青少年プログラム副部長（写真上段左）らが講師として参加された。ワークショップでは、今後10年の世界機構、アジア太平洋地域、各国のスカウティングの将来像を探りながら、その前途にある障害と解決方法を、組織、プログラム開発、成人資源開発（アダルト・リソース）、マーケティング等の各分野に関し、演習（グループワーク）と講義（セッション）によって模索した。



アジア太平洋地域は、世界で2800万人（現在）のスカウト人口のうち1900万人を抱える最大の地域であるが、特に南西部の各国に於いては政府主導の運営に特徴があり、地域事務局からは早晩の「民営化」を求められていた。主任講師格（コースアドバイザーでもある）のキム・キューヨン・地域事務局長は、非常に的確に日本を含めアジア太平洋地域の国情、政治事情、若者事情を把握されており、その改善方法も熟知されているように見受けられたが、各国のスカウティングはそれぞれ各国の指導者、運営者が創り出すもの、という信念を感じた。我々日本が、このような優秀な運営者のもとにあることは、大いなる勇気をもたらされたが、日本に於いてはアダルト・リソース方針（世界機構が定めた、成人資源開発の基本方針）の導入を含め、早急に改革に取り組むべき岐路にある、とも感じた。21、22日の2日間は、100名を超す一般参加者（残念ながら神奈川連盟では、公募は行わなかった）も加わった、シンポジウムが併行開催され大変有意義かつ貴重な行事となった。（報告・広報委員長・小林明美）
今回の広報誌では、世界戦略の解説第1弾として、後半ページに関連特集を掲載している。是非、御一読されたい。

地区ラリー

11月3日、県央地区ラリーが座間市の芹沢公園で開催されました。今回は県央20周年記念事業の一つの行事として県央地区全ての団が参加し、1400名が集う盛大なラリーになりました。開会式に先だって、20周年記念シンボルマークの紹介があり、発案者の大和第5団ボーイ隊・栗原晶子さんが表彰されました。開会式後、ビーバー、カブ、ボーイ部門に分れてラリーを開始しました。ビーバー部門は、子どもたちに人気があるポケモンが各コーナーに登場するゲームでした。各コーナーともキャラクターがうまく活かされていたので、ゲームがとても盛り上がっていました。カブ部門はロープ、計測、キムスなど8ポイントのゲームを組対抗で競い合いました。くまスカウトが中心になって真剣な面持ちでゲームに取り組んでいました。ボーイ部門のプログラムはスカウトの知識や技能章と関連したもので構成されていました。いずれのポイントも、スカウトとしての心構えや日頃訓練している技能を、カー杯発揮できる内容で、楽しみながらも真剣に挑戦している姿を見ることができました。閉会式後、参加者全員で記念写真に収まり、散会になりました。

(報告・地区広報委員・下地章子)



シルクロード自転車走破行 (相模原第8団・中村岳彦)

自転車で世界を一人旅する大学生がスカンディナヴィア半島、エジプト、中国に続く4度目の世界自転車行「シルクロードの旅」を、この夏36日間かけて行った。中国・ウルムチを出発し、パキスタンとの国境、標高4733mのクンジェラブ峠を越え、約2700km先のイスラマバードを目指す旅。学生生活最後の夏休みを利用して“西安～ローマ”と言われる古代の東西通商路シルクロードを駆けぬけた。気温40度強。アスファルトから照り返す熱のせいもあり、汗は涸れて塩になってしまうほど。右手に天山山脈、左手にタクラマカン砂漠を望み、ほとんど通商のトラックしか通らない一本道をひたすら西へ走る。ときどき生い茂る緑の中に入ると湿気のおかげで汗がふき出し、暑いながらも清々しい気分になり、自然の恵みに感動をおぼえた。23日後、砂塵が舞う平野のコースは終わり、峠へと向かう山脈コースへと変わった。途中、気圧の低下や酸素欠乏のために起こる“高山病”に襲われ、休みながらもわずかな距離を進んでいった。5日間かけ、ようやく頂上の目的地クンジェラブ峠へ。山と山の間に突如として現れる氷河、砂漠に揺れる屋気楼、パミール高原で遭遇した遊牧民たちのパオの生活、そしてインダス河の恵みを受けるパキスタンの自然に勇気を与えられながら、相棒の自転車と頂点に立った。砂漠地帯だったので途中で水がなくなる不安があったが、大学1年のときに60日かけて日本一周をした時と同じくらいの達成感があった。遊牧民の暮らしを間近にしたりして、日本での生活スタイルだけではないなと思った。旅行前、憧れていたシルクロードは、NHKのドキュメンタリー番組のイメージ。しかし実際のその道は、風と砂の音しか聴こえてこない寂しい場所だった。何百年も前に玄宗が同じ道の通ったと思うと辛くても楽しかった。あの時と砂漠も星も変わっていないはずだろう。卒業前にはもう一度旅に出る予定。

(報告・相模原第8団・中村俊雄)



クリスマス会のケーキ

クリスマス会には、各団共、趣向を凝らしておられると思いますが、我が団ではジャンボケーキを作っています。飾りをつけて縦70センチ×横90センチ×高さ12センチ位の出来上がりで、玄関のドアを出るのがやっとです。スポンジケーキはお店に発注し、ジャムか生クリームでくっつけて台を作り、その上に生クリームを一面塗ります。これで白いキャ



ンパスの出来上がり。さらにその年のクリスマステーマのキャラクターをチョコペンなどの小道具を使って描きます。クリスマス会当日、導入部分で各隊長がケーキのキャラクターに扮し、ミニコントを入れてスカウトと共にキャンドルを点火します。プログラムの途中でケーキのお披露目をサンタの誘導で紹介し、その後切り分けられてお口の中に入ることになります。65人分に切り分けるとショートケーキ2個分くらいの大きさになります。世界にひとつしかないケーキは毎年スカウトや参加スカウトの楽しみです。(投稿・大和第4団・上迫フミ子)



スカウティングの世界戦略、始まる

2002年の次回世界会議(タイ;世界ジャンボリーと同年開催)に向け、世界機構は1993年の第33回世界会議(バンコク)で、10年間の戦略目標を設定した。

- 1)青少年プログラム開発
- 2)アダルトリソース方針
- 3)各国スカウト組織の運営(改革)
- 4)各国スカウト組織の自己財源確保
- 5)スカウト運動の発展(成長)
- *PRとコミュニケーション



この決議の中で特に重要と思われるのは1)青少年プログラム開発と、2)アダルトリソース方針、であることは、間違い無い。大変遅ればせながら、日本でも

その導入が始まったのは、既報通りである。この報告ではその詳細まで触れることは到底不可能だが、誤解を恐れずに申せば、スカウティングに「科学の時代が訪れた」と表現できよう。プログラム開発、何も言われなくともこれまで、キャンプやハイキング、進級など、規定に沿って行って来たはず。ところが極端に言えば、今後は心理学、行動学、マーケティング論まで視野に入れて開発しろ、といったことだ。つまり、職人の仕事(あるいは、錬金術)から、エンジニアリング(あるいは、科学)に移行すべき時代に入った、と表現することも出来よう。10月21日、アジア太平洋地域多目的ワークショップと併行して開催されたシンポジウム(P1参照)の冒頭、世界事務局(ジュネーブ)の青少年プログラム副部長・ジャクリーン・コリアー女史は、「B-Pが発案してほぼ1世紀、そのまま通じるはずがない」と、参加者の土肝を抜いた。また、牛山佳久・日連アダルトリソース委員長は神奈川県連が11月23日に開催した「団運営研究集会」で基調講演を行われ、「スカウティング・フォア・ポーズをバイブルのように崇めている人がいるが、B-Pは生前、20回も書き直している。B-Pがもし今の時代を生きていたら、さらに改訂していただろう」と我々の目を醒ます発言があった。21世紀、新たな時代への突入が今、始まるようとしている。

デジタル作業部会レポート

地区の広報委員会としてホームページの運用が平成12年7月18日より行われていました。また、地区の役員・団委員等を対象にメーリングリストのテスト運用も開始しました。12月20日現在、1000余の来訪者(ページビュー)がホームページにありましたが、皆様ご覧頂けたでしょうか。今年は地区発足20周年に当り、各地で記念行事も多々実施予定です。インターネットの持つ速報性や同時性を意識しながら、実施予定のお知らせ、実施レポート等、インターネット時代に即したコンテンツを提供してまいりたいと思います。また過日行われた「地区スカウトフォーラム」では、インターネットやホームページを活用して日本全国のみならず世界との交流を図る活動を行う旨のベンチャースカウト宣言が採択され、その中にはベンチャースカウト自らがホームページを運用する計画が織り込まれています。広報委員会デジタル作業部会はこれにも協力を致したく思います。家庭で、学校・職場でインターネットにアクセス出来る方は是非、ご覧下さい。県央地区では4箇団が自団ホームページを開設しています。それぞれ個性があって楽しいものです。(報告・広報委員・宮島不二夫)

地区	http://www.bskanagawa-kenoh.org/	写真右
相模原第9団	http://homepage2.nifty.com/sagami9/	
座間第1団	http://www.asahi-net.or.jp/~kb5s-nmt/	
海老名第3団	http://ebina3.hoops.livedoor.com/menu.htm	
大和第5団	http://miyajima.org	

デンリーダー研開催

11月12日(日)県央地区デンリーダー研修会が28名の参加者により、相模原立青少年学習センターで行われました。午前中、スカウト運動及びデンリーダーの役務についての講義がなされ、午後からは組集会、隊集会のデモンストレーションを実施し、組別のスタンツ発表では素晴らしい出来栄で、組の仲間とのコミュニケーションがすごく良かったと思います。組活動では、計測、ソング(動作入り)、ロープワーク、ゲーム等のプログラムを真剣に取り組み、寒さを吹き飛ばして頑張っておられました。この研修会では、スカウト活動の楽しさを理解されたと思います。

(報告・地区指導要員・根塚行夫)

投稿より

「カブの思い出」

ぼくがカブに入って一番楽しかったのは、今年のキャンプだった。いままでキャンプの日程には二日ぐらいしか行けた事がなかったし、カブで最後のキャンプだったから一週間前からはりきっていた。キャンプのハイキングは予定していた所よりも先の方まで行って川と森林がある所で、自分たちで作ったおにぎりを食べたのや、ねる前みんなで話して笑っていたのをよく覚えている。でもやっぱり、一番楽しかったのはキャンプファイヤーだった。短い時間で小道具を作ったり、せりふを覚えたりしたのが大変だったけど、本番ではうまく行って少しほっとした。最後の日の表彰式には出られなかったけど一位になったという話を聞いてうれしかった。ぼくはボーイ隊に上進するから、これからもがんばって行きたいです。

(大和第3団 ボーイ隊・野口隼輔)

